

タウンミーティング記録 未来に向けて 今、ここから

日 時 令和6年10月24日(木) 午後7時～8時30分
場 所 下福岡集会所（下福岡自治会）
参加者 26人



主な意見等

参加者 私の田んぼに接する道路に数年前に木の杭を打って板を張って路肩が崩れないようにしていただいたのですが、その板が腐食して路肩が崩れていることから、市へ伝えたところ、一部については H 鋼を打って、コンクリート塀の対応を行っていただきました。全体としては崩れているところが数メートルあり、作付けするために軽トラックやトラクターが通る事が多く危険ではないかと思います。崩れているため、大雨の際に私の田んぼに砂利等が流れてきて困っています。修繕を行っていただけないでしょうか。

市長 当時の事情等が詳しく分からないことから持ち帰らせていただき、どのような対応ができるのか、担当と検討させていただきたいと思います。

参加者 私の方からも道路課に話はしています。市長にも現場を確認していただけないでしょうか。トラクターや稲刈するコンバインなど重機で通ります。木枠が腐っていることから、雨等で緩んで崩れたら命に関わりますので見に来ていただけないでしょうか。

私の方からは一部の手直しではダメだと、全体を直していただきたいと伝えていますが、全体を直すには計画に入れる必要があると言われていましたが、この話は2～3年間前から話しています。一度見ていた

できればどれだけ酷い状態かわかるかと思います。一部壊れたところは昨年直していただき、杭を打っていただいたところは数年前になります。

市長 酷い状況ということですので私も見に行きますが、専門的な部分は職員じゃないと分かりません。田んぼに沿った道路は下福岡地域だけではなく、他の地域でも同様の状況が起きていると思います。そういう状況になる原因は様々な要因があるかと思います。

車の通行量はそこまで多くはないかと思いますが、主要の幹線道路を作るような路盤を打つようなことはないかと思います。

最初に回答させていただいたとおり、現場も見に行きますが、専門的な技術を持った職員たちと検討し、市内全体のバランスも考えて検討してまいりたいと思います。

参加者 今のお話と同様に道路の整備を考えていただきたいと思います。自宅の裏の農道の傾斜が酷く雨が降ると U 字溝の中に砂利が入り、このままだともっと崩れて田んぼに入ってしまう。私の家の裏のみが崩れて、その先のところはしっかりしています。

先月、道路課に相談に行きました。私の家から第2運動公園の入口付近の除草作業を行っていただいておりますが、私の家の裏の道路については、3日くらい経ってから職員の方が見に来ていただきましたが、その後の対応はどのようになっていますか。

市長 対応につきまして確認させていただきます。

参加者 3名の方が営農するための話をされていましたが、道路を格上げして、防災などの問題が発生したときに退避路として利用できるようなところまで検討する必要があるのではないかと思います。

私も通りましたが、農耕用の車が入っていける状況ではありません。路肩が崩れて田んぼに落ちていくのではないかという状態になっています。退避路として利用できるような拡大したところまで考えて対応していただきたいと思います。

市長 ありがとうございます。

今おっしゃっていただいたことも大切なことだと思います。この地

域に限った話ではありませんが、旧上福岡市、旧大井町も高度成長期の比較的財政的に良い時代があり、そのときに一定の基準を満たしていなくても公道の認定をしてきた時代がありました。

何十年も経過し、まち全体として道路にかける予算は昔に比べると少なくなっています。物価高騰など価格の価値が違いますが、かつてどんどん進めていった時代に比べて、現在も同じように公道であるからと全部修繕を行えるかという、すぐにはできない状況であり順次進めていくことになります。

お話を伺いまして、営農するため、災害時の避難路として活用するための必要性として、道路の格上げを行っていただきたいとのことでしたので、ご意見を持ち帰らせていただきまして、検討していきたいと思えます。

参加者 石川の豪雨災害の映像を YouTube で見ました。ものすごい鉄砲水の映像でした。私が心配しているのは荒川の氾濫で、もしも氾濫した際にどのくらい水浸しになるのか電信柱に想定の高さを示していただくことはできないでしょうか。

久喜市であったかと思いますが、利根川が氾濫した際にここまできまよと電信柱に印をしているそうです。周辺の人たちは氾濫した際にどの位までくるのか分からないので危機感がないのではないのでしょうか。荒川が氾濫した際の想定浸水深を電信柱に示すことはできませんか。

市長 海に近い地域では、津波の高さが表示されています。お話にありましたとおり、荒川に近いエリアでは、電信柱に浸水被害のときにどの位の高さまで達するか表示をしているところもあります。

現在、本市では行っていませんが、皆さんのお手元にはハザードマップという形で地図上の物に色分けをして、この付近は荒川の水害のときは何メートル、新河岸川の水害のときは何メートル浸水するか示しています。確かに電信柱に目印をつけて、それを見てここまで水が来るんだと感じていただけることは非常に効果的なことだと思いますので、今後検討したいと思えます。

水害の場合は一定程度そのくらいの状況が生じることが地震と違って前もって知ることができます。全ての電信柱でなくでも示すこと

で、いざというときにこうなるんだなと認識が深まるのではないかと
思いますので、そのことも含めて考えていきたいと思います。

参加者 先程来、道路の話がありましたが、水路にしても老朽化して漏れたり、崩れてきたりしているところが至る所にあります。先ほど道路についての災害の観点と併せて、全体的な部分を捉えて街づくり的な視点や国、県からの予算を取るなりして見直しを行い、すぐさま行っていただきたいと思います。

市長 本市は合併したことで財政的な恩恵を受けているので、近隣の自治体以上に様々な施策を進めることができましたが、現在、経常的な支出が増えてきており、経常収支比率も厳しい状況であります。公共施設の更新事業は一定程度進めることができました。学校の給食につきましても物価高騰に伴う給食費の値上げは行わず、不足分は市の予算の中から埋めています。ある自治体では給食費の値上げはしないけど給食の内容を変更している自治体もあるようです。

今日は直接お話ができる機会でございますので、色々なことをいただきますので、全体のバランスの中で進めさせていただきたいと思います。

参加者 何年か前に本下水の話がありましたが進捗はいかがでしょうか。

市長 本下水の話は立ち消えになっておりません。合併前の上福岡市、大井町もまち全体に公共下水を入れる計画が作られていました。市街化エリアは一定程度進みましたが、調整区域は進めてきませんでした。

埼玉県から公共下水道計画、生活排水計画の見直しについて問い合わせがありました。私は整備するのかもしれないのかをはっきりさせる必要があると思い、調整区域の方にアンケートを実施しました。さらに自治会長さんから整備していただきたいとご意見もいただき、調整区域の公共下水道整備を進めることにしました。

現在の状況は、駒林地域と川崎地域、大井苗間地域は着手をしました。調整区域で営農している方は敷地が広いことから、受益者負担金が高くなるため軽減するための分納制度や宅地内の畑の減免など色々な制度を作りながら、調整区域内の公共下水道の整備に着手させ

ていただいています。

参加者 災害の話がありましたが、民間企業を誘致した大きな物流倉庫があるかと思います。万が一に災害が起きたときに地域に住む方が物流倉庫に一時避難や何日間か避難するための物資をストックするなどテレビで見ましたが、この地域では計画されているのでしょうか。

市長 確率は低いですが、万が一荒川の浸水被害が発生したときは、高層の建物に避難することは有効な手段だと思いますが、そこに避難して水が引くまでの時間を計算すると、その期間、深い水深のところには物資を運ぶことは困難です。

民間企業から借りることになりますので、借りた民間企業と協定を結ぶことはできるかと思いますが、水深が深くなってしまった場合に人が避難した場所にアクセスができなくなることも想定されます。大雨で荒川が決壊する場合には、時間があるかと思いますが、できれば全体の地形が高台になっているところに避難していただくことが正しい防災対策だと思っています。

現在は避難場所を示されていますので、水害が発生した際には、そこに避難していただくことが有効だと思いますが、一時避難の効果の可能性はあるかと思います。市では民間企業とも災害協定を結んでおりますので、そこも含めて検討させていただければと思います。